

仙ノ倉谷 西ゼン

佐藤(里)

【日時】 2011年10月2日(日)

【メンバー】L 大野、福永、佐藤(里)

「トマゼン祭」と称して西ゼン、中ゼン、東ゼンのミニ集中が開催された。私は行程の長い中ゼンを遡行する予定だったが、体調があまり良くないので当日朝に一番早く戻れる西ゼンに変更してもらった。

仙ノ倉谷左岸林道ゲートから出合までは10名で行動。出合からは西ゼン、中ゼン、東ゼンメンバーに分かれ行動開始。出合から西ゼンを見上げると巨大な



ナメが広がっている、最初から大感動。と、Lはその中央の水流をタワシでこすりながらスタスタと登って行ってしまった。福永さんはその後を続いたが途中で一歩が出なくなってロープを出してもらい、私はそれすら恐ろしいので右のブッシュからはい上がった。最初は濡れた斜面が怖かったが、乾いた場所を選ぶとアクアステルスのフリクションが効くと分かりだんだん大胆に歩きはじめる。



第一スラブ手前の2段10m滝はさっさと巻いたが Lは直登したかった様子。次の滝からはもう我慢できなくなり全て直登モードになってしまった。全身を使いガシガシ登っていくL、西ゼンの滝では物足りないかしら…

第一スラブは後ろを見なければペタペタ歩けて楽しいのだが、振り返るとどこまでも滑り落ちていくような斜面が眼下に広がる。

第二スラブはかなりの傾斜だ。怖いといふ端の草付を頼りがちになるが端は急こう配になり余計危ない。何度もルートを外れそうになるがLに呼び戻され傾斜が緩い中心の水流沿いを進んだ。ここは濡れた斜面を避けつつホールドを探しながら行くしかない。どうかスリップしませんように。

垂直の黒い滝を超えると源流部でやがて笹藪となる。詰めは藪漕ぎなしという話だったが、途中で踏み跡が分からなくなり深い藪に突っ込んでしまう。背の高い笹と格闘しながら池塘のある稜線にでた。他パーティーと無線で交信するが皆遡行中。稜線には一番乗りだ、何だか嬉しい。



下りの平標新道ではつい先ほどまで格闘していた壮大なスラブ全容が見渡せる。西ゼンが人気の沢というのも納得できる。

ということで早々に駐車場到着。雨も降り始めるすごく寒いなか（翌日は千ノ倉岳で初冠雪！）銀マットにくるまって東ゼンと中ゼンPを待っていた。

【グレード】2級

【行程】 仙ノ倉谷左岸林道ゲート(6:20)～平標新道渡渉点(7:20)～西ゼン出合(8:25)
～第一スラブ(9:20)～第二スラブ(10:00)～右俣(10:40)～平標新道(11:45)
～仙ノ倉谷左岸林道ゲート(15:10)

【地図】 土樽・三国峠

谷川 仙ノ倉谷・中ゼン

飯田

【日時】 2011年10月2日(日)

【メンバー】L飯田、横山、今井

連休の間の日曜日、「トマゼン祭」と称して、西、中、東ゼンを、登ることにした。集まってくれたのは10名。その中の3人で中ゼンに行くことに。

前夜、土樽の駅で軽く宴会をし、バッキガ平へ車を移動し出発。

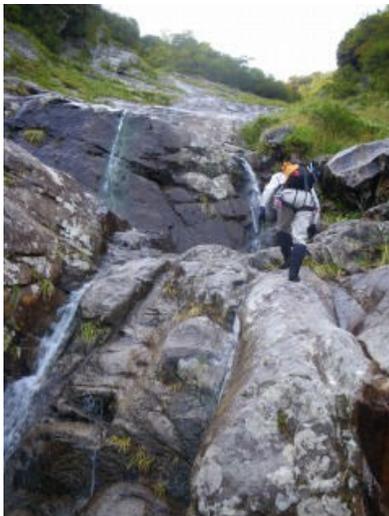


西ゼン出合で記念写真を撮り、それぞれの沢へ別れていった。

中ゼン出合に着くと、いきなりスラブが始まる。それも結構な傾斜で、最初から苦労してしまった。

しかし、そこを越えると傾斜も緩くなり、適当に登っていくことができる。

(いわゆる、出だし核心)

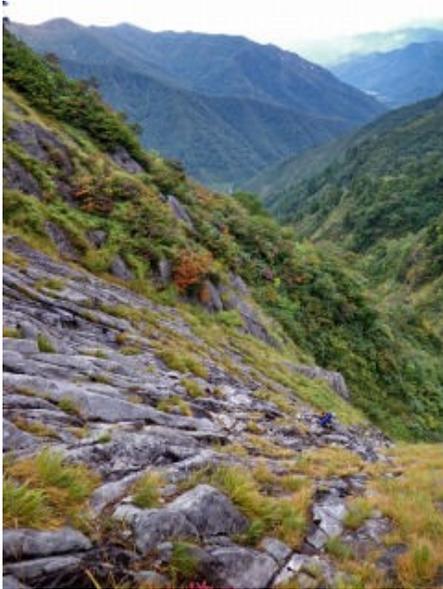


ところどころ、急になるところもあるが、アクアステルスを履いているので、不安なく進める。

横山さんはフェルト足袋なので苦労していたが、あまりにも楽そうに登る私を見て「来年はアクアステルスデビューしよう」と誓ったのでした。

とにかく、スラブが続く。ただただ、スラブを登るだけ。

2時間も登り続けると三俣に出て、東ゼンの支沢を降りるため左俣に入る。



急斜面の根曲り竹の密藪(4級上)を20分ほど漕いで支尾根に出て、沢を下降するのだが、思ったより傾斜もあり、よっぽど中ゼンの遡行より緊張する下降だった。

一時間半ほどで、ようやく東ゼンと三ノ字沢の出合に着いた。

一休みして無線を開けると、西ゼンPはすでに登山道に出て下山するところ。

東ゼンPは、後一時間ほどで稜線に着くだろうとのことだった。

私たちは東ゼンを懸垂で降りることにし、その旨を連絡した。

(東ゼン支沢を下る)



大滝を2P、その先1Pの懸垂下降をして、中ゼンの出合に。

その後は、スラブをペタペタと降りて行って、雨が本降りになる頃、みんなの待つ駐車上に着きました。

来年は何祭を計画しようかな？

(東ゼン大滝の下降)

【グレード】2級上

【行程】 駐車場(06:20)～中ゼン出合(08:40)～支尾根(11:25)～三ノ字沢出合(12:40)
～西ゼン出合(14:40)～駐車場(16:30)

【地図】 土樽・三国峠



トマゼン祭 東ゼンパーティ

仙ノ倉谷 東ゼン

五十嵐

【日時】 2011年10月2日(日)

【メンバー】 L小暮、栗原、煤孫、五十嵐

前夜は土樽駅泊。先客がいたのでホームで宴会するが、とても寒い。ダウンジャケットを持っている人は羽織り、忘れた人はシュラフにくるまって飲む。上野公園みたいだ。

10月2日(日) 曇りのち雨

車でゲート前まで入る。午後から雨の予報なので、すばやく準備を済ませて出発。10人が一列となって黙々と歩く。登山道は台風の影響か倒木が多く、巻き道もつけられていた。1時間ほどでダイコンオロシ沢の渡渉点、沢に入る。

遠方に現れたのは中ゼンの大滝。「あれ登るんですか」とだれかの声。登れるようにはとても見えない。自分は東ゼンパーティでよかったと強く思う。

西ゼンで集合写真。大野さんが滝の途中で直立している変な写真となる。直登はむずかしそうだが、端っこから登れば楽しそうだ。

中ゼンパーティとも別れると、沢はV字状にせまくなる。やがて核心の大滝が現れた。2段60mで、上段の滝は下部からほとんど見えない。右壁に小暮さんが取り付く。流芯に向かってザイルを伸ばすが、中間バンドで苦労している。戻って、ラインを右にとり直してから、まわりこむように左上していった。五十嵐、煤孫が続き、栗原さんがつるべで先行する。滝には戻らず高巻きするが、ひどいやづ漕ぎ。からまって身動きがとれない。やっとの思いで滝の落ち口に降り立つ。どうやら滝を登るのが正解だったようだが、この寒さでは水を浴びる気にはならないし、時間はかかってもこれでよかったように思えた。

滝をふたつほど超えると、沢は少しずつ狭くなり、終わりが近いのを感じさせた。沢はいつのまにか笹につけられた踏み跡となり、かきわけかきわけ進むと登山道に出た。

平標山へと続く稜線は紅葉の盛り。ピークを踏んで滑りやすい平標新道を何度も転びながら下った。

当然、最後の到着だろうと思っていたが、車に辿りつくとき中ゼンパーティが未着。雨も降りだして心配したが、20分もしたら到着、安心した。

【グレード】2級上

【行程】

10/2（日） ダイコンオロシ沢渡渉点（07:35）～西ゼン分岐（08:30）～登山道（12:50）
～ゲート（16:10）

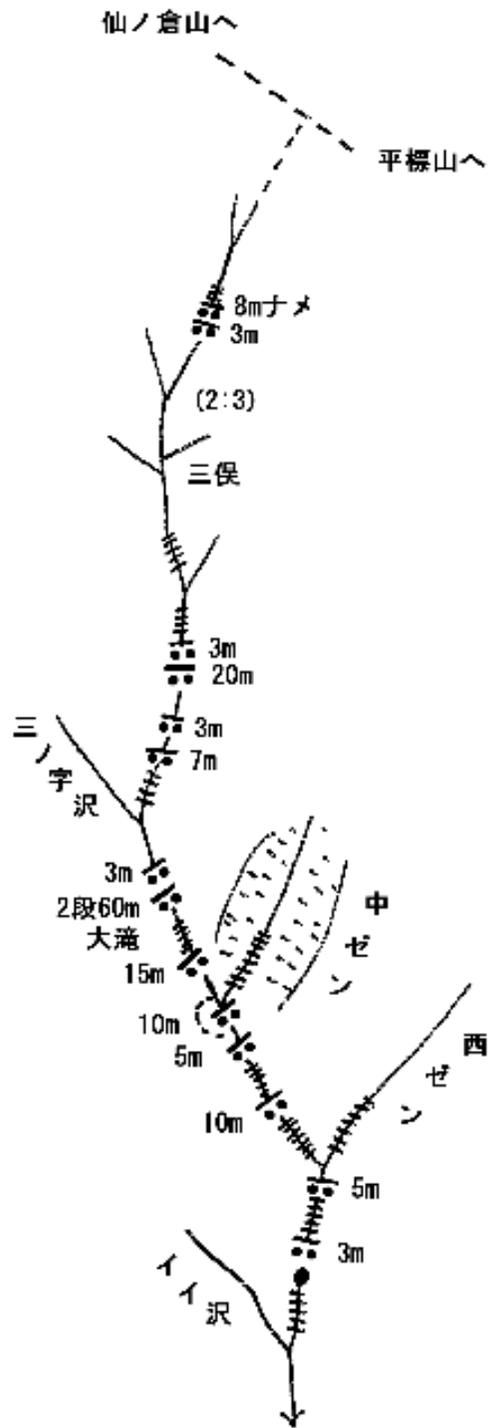
【地形図】土樽、三国峠



核心の大滝。右壁から取り付く



平標新道から東ゼンを見下ろす



谷川連峰 仙ノ倉東ゼン廻行図 小暮作図